

## 北海道開拓の村から昔の生活を見てみよう

「食事をするのはどこの部屋？」

ねらい

案内図から現在地と目的地を認識できる。

展示資料を見て部屋の用途を考えられる。

目的達成のためのグループ行動で連帯感を高める。

高学年は低学年の児童の面倒を見ながらリーダーシップを発揮する。

中学年は高学年に従い、必要に応じて補助する。

低学年は高・中学年の指示に従いグループでの活動を経験する。

学習の流れ

	内 容	留意点
導 入	<p>皆さんの家では、食事をする部屋、寝る部屋などは決まっていますか？そこには、どんな道具が置いてありますか？ 今日は約100年前の家から食事をする部屋を見つけてみましょう。</p> <p>ルール説明後村内へ</p>	<p>予めグループ分け( )</p>
学 習 活 動	<p>配布された間取り図の家を探して食事をする部屋を探し、「なぜ」を確認しながら意見交換してグループの統一意見をまとめていく。</p> <p>グループ行動 ・行動決定 ←→ ・発見 発言 意見交換</p> <p>グループの「解答」の決定 ・どの部屋を「食事をする部屋」と考えたのか ・決め手となったのは何か</p>	<p>基本としてグループ行動</p> <p>玄関の位置などを記入した間取り図を配布する。</p>
ま と め	<p>他の家屋を見学し、共通するものをみつける</p> <p>グループ発表</p> <p>道具や間取り、設備などから生活を想像するという視点から、それぞれのグループの解答・発表について講評</p>	<p>集合時間の設定</p>

## ルール

北海道開拓の村案内図（リフレット等）と間取り図を持って村内を巡り、間取り図の家屋を探し出すとともに、展示を見て食事をする部屋を考える。グループで決定した際の決め手を全体の前で発表する。

下の表のように、対象家屋の数や名称の有無によって活動の難易度が変化するため、滞在時間や児童生徒の能力に合わせ設定することができるほか、複数の組み合わせをつくることで活動箇所の分散を図ることができる。

なお、時代や家族構成など様々な要因で部屋の利用法は変化するものであり、必ずしも解答が一つとは限らないので、グループの変化が回答の変化を生む可能性がある。この利点を活かすためにはコーディネートする側が回答ではなく視点や判断などの活動に対する評価を与えるよう配慮することが望ましい。

